



▲小蔦島遠景



▲小蔦島貝塚出土遺物（仁尾町文化会館に展示中）

こつたじまかいづか 小蔦島貝塚 ～燧灘に浮かぶ縄文時代の貝塚～

小蔦島貝塚は、仁尾町の沖合約1kmに浮かぶ小蔦島に所在します。貝塚は島の東部に広がる、舌状に突き出た平地に位置しており、昭和33年に県指定史跡になりました。

貝塚とは食用された貝が廃棄された場所で、動物の骨や土器、石器なども捨てられていた縄文時代のゴミ捨て場のことです。小蔦島貝塚は縄文時代のはじめごろ（およそ八千年前）の遺跡であり、県内では最古級の貝塚です。大正・昭和を通して、数回にわたって発掘調査が行われ、ハマグリやアサリなどの貝殻をはじめとし、さまざまな種類の土器やおもり、^{やじり}鏃といった石器が出土しました。土器はいわゆる^{かえん}火焰土器のような装飾性の高い、華やかなものではなく、模様のないものやだ円などの模様が彫られた短い棒を転がして施文されているシンプルなものが出土しています。ほかに、鹿や猪といった獣骨の出土も確認されています。

このように遺物は豊富に出土しましたが、住居などの痕跡は見つかっていません。

縄文時代のはじめごろの遺跡は県内では数が少なく、特に西讃地域においては小蔦島貝塚しかありません。当時の小蔦島は、現在より海面が低く、四国と陸続きであったため、人々は海の幸と山の幸を採集しながら生活を営んでいたと思われます。小蔦島貝塚以降、市内の縄文時代の遺跡は仁尾町や詫間町の荘内半島といった、沿岸部に多くみられます。

最近の研究では、縄文時代はさまざまな食料に恵まれ、各地で交易が盛んに行われていた非常に活発な時代であったと考えられています。小蔦島貝塚は、当時はただのゴミ捨て場でしたが、現在では縄文時代の人々の生活を伝える大変重要な遺跡となっています。

<生涯学習課>

今月の市民力

自分たちの手で楽しく思い出深い成人式にしたいと、会議や打ち合わせを重ね、準備を進めてきた16人の運営スタッフ。式当日は、晴れ着姿の新成人であふれる会場で、受け付けをしたり式典の司会進行を行うなど、裏方として成人式を支えました。

人生の節目となる成人式を無事終え、自分たちで式を運営するという目標をやり遂げたことが、大きな自信につながったことでしょう。

